

平成 23 年 4 月 20 日  
北陸電力株式会社

### 志賀原子力発電所周辺の放射性ヨウ素、放射性セシウムの検出について（続報）

当社は福島第一原子力発電所の事故を踏まえ、志賀原子力発電所の環境放射線監視を強化しています。

以下に、本日の測定結果をお知らせします。

#### 志賀原子力発電所の敷地内で検出された放射性物質の濃度

放射性物質 採取地点	ヨウ素 131	セシウム 134	セシウム 137	試料採取期間
発電所敷地内 (降下物中) ※1	$3.8 \times 10^1$ [ $\mu\text{C}/\text{m}^2$ ]	$2.1 \times 10^1$ [ $\mu\text{C}/\text{m}^2$ ]	$2.0 \times 10^1$ [ $\mu\text{C}/\text{m}^2$ ]	平成 23 年 4 月 18 日 9:50 ~4 月 19 日 10:00
発電所敷地内 (大気中) ※1	$6.0 \times 10^{-3}$ [ $\mu\text{C}/\text{m}^3$ ]	検出されず	検出されず	平成 23 年 4 月 19 日 8:59 ~4 月 20 日 8:56

※1 上記の降下物中及び大気中の放射性物質により受ける放射線量は、1日で約0.6マイクロシーベルトであり、胸のエックス線検診（1回）で受ける放射線量（60マイクロシーベルト）と比べると約百分の1と十分低い値です。

また、環境放射線監視の強化にあわせ、発電所から放出される放射能監視も強化しているところ、本日、志賀原子力発電所2号機の排気筒から放出される排気中に微量の放射性ヨウ素（ヨウ素131）を検出しました。

本事象は発電所の換気空調系により取り込まれた大気中の放射性ヨウ素が排気筒から放出される際に検出されたものであり、志賀原子力発電所に起因したものではありません。

放射性物質 採取地点	ヨウ素 131	試料採取期間
志賀原子力発電所 2号機排気筒	$6.6 \times 10^{-3}$ ※2 [ $\mu\text{C}/\text{m}^3$ ]	平成 23 年 4 月 19 日 10:27 ~4 月 20 日 9:50 ※3

※2 現在、志賀原子力発電所1、2号機は停止しており、原子炉水中の放射性ヨウ素濃度や放射線モニタに有意な変動はありません。また、福島第一原子力発電所の事故以降、発電所敷地内の大気中に放射性ヨウ素が検出されており、全国各所においても放射性ヨウ素が検出されています。

※3 通常は1週間分の試料採取を実施します。現在は福島第一原子力発電所の事故を踏まえ、影響を早期に検知する観点から、通常の測定に加え、試料採取期間を短縮して実施しています。（志賀1号排気筒と志賀2号排気筒を1日交替で測定）

以上